

■藤原時平 公卿。菅原道真を左遷し、権門の私的な活動の禁止など、藤原摂関家を足場をつくったが、早世した。

ふじわらのときひら

貞観式成立・ 871＝ 人康親王の女を母に、藤原基経の第一子に生まれる。弟に忠平がいる。

基経太政大臣 880＝ **9歳**：

・ ・ ・ ・ ・ 886＝15歳： 仁寿殿で元服し、加冠の役を光孝天皇みずから行ない、正五位下に叙せられた。

宇多天皇即位 887＝16歳： 左近衛中将・蔵人頭・讃岐権守などを歴任して、

・ ・ ・ ・ ・ 889＝**18歳**：
基経関白辞任 890＝19歳： 従三位となり、
道真蔵人頭・ 891＝20歳： 参議となった。父基経が死去し、政界の主導権は宇多天皇が握り、菅原道真が登用されるなど、必ずしも時平に有利には進まなかったが、宇多天皇と対立することもなく、むしろそれまでの特異な昇進が正常にもどされたというべきであろう。

・ ・ ・ ・ ・ 893＝22歳： 中納言となり、春宮大夫を兼任し、
右大將をへて

宇多上皇・ ・ 897＝26歳： 右大臣能有が死去すると、時平が大納言、道真が権大納言となって太政官の中心的位置を占めた。宇多は讓位し、醍醐天皇が即位して時平は外戚となったが、宇多は讓位に際して「寛平御遺誡」を醍醐に与え、時平にも信頼をおくべきもののべ、これが法的規制力を有してその後の政治も宇多上皇主導で行なわれた。大納言、左大將、氏長者となる。

・ ・ ・ ・ ・ 898＝**27歳**：
道真右大臣・ 899＝28歳： *左大臣となったが、道真も同時に右大臣に昇進し、政界では両者の対立が大きな物議をよんでいた。
菅原道真左遷 901＝30歳： *従二位となる。宇多上皇を排除したまま、廢立の企てありとして、道真を大宰権帥に左遷し、一族を京外に処罰した。真相は不明確だが、藤原氏や源氏という門閥貴族による公卿の独占状態の中で、道真の昇進は全く異例であり、多くの貴族から反感をかっていたことは確かであろう。醍醐の側近にあった上皇系の官人もそのほとんどが追放され、時平が政治の実権を掌握し、妹の穩子を女御として入内させた。

初の莊園整理 902＝31歳： 国政の改革をめざし、以後の基準となった<莊園整理令>を含む一連の新制を断行し、
道真没・ ・ ・ 903＝32歳： 権門の私的な活動を禁止するなど、律令制の立て直しを強引に行なおうと古代貴族の最後の努力をしたが、一部貴族の反発をうけ、成果が不十分なまま、

唐滅亡・ ・ ・ 907＝**36歳**：
・ ・ ・ ・ ・ 908＝37歳： 正二位となった後、
藤原時平没・ 909＝38歳： *没した。それは道真の崇りであるとも伝えられた。正一位・太政大臣を贈られた。
「日本三代実録」「延喜格」「延喜式」の編修・撰修に携わり、「古今和歌集」の撰進にも関係したとみられる。